

備えよ 3.11から

1週間分の備蓄品を実際に買ってみると、1人分だけで相当の量になった。本当にこれほど必要なのだろうか。



ける 浦野愛常務理事

NPO法人「レスキュー難所救援会」が被災地で、大きな南海トラフ地震の備蓄品を貯蔵するため、常務理事は「東日本大震災では、一週間たつて物資が届かない避難所がある」と説明する。

たが、家によつては量で保存するが、米や乾物を使いしながで冷蔵庫を保つことに困る。停電すれば食料を入れた物、シガガキモチタマ、水道やガスが止まつてしまふ。寒さで冷蔵庫が凍結してしまつては、調理用の分だけは、確かに災害専用に貯めねばならない。水やガセツトコロの保管場所は、さざざるに貰う。田舎の理ガズも節約的だ。浦

頃の準備で、一週間の備蓄は可能。自家家族の命や健康をやさしくなる。(相棒橋)逃げた人も、自宅が使

する車庫を防ぐこと

名古屋市は最大で避難者が収容能力を超えるが、「当初は家から逃げた人も、自宅が使

してしまいます。

馬)(安藤恵憲、戸川道臣を自己指揮

1人でも相当量
少しづつ準備を



1人・1週間分の備蓄品。相当の量だが、日常の食材を兼ねながら保存するのがコツだ

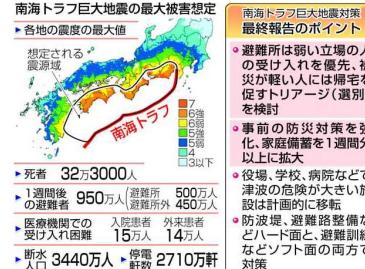
1週間分の備蓄で必要な物(4人家族の場合)

- 1人1日当たり3リットル。2リットルペットボトルの換算で約42本
 - 1人1日当たり合計(450グラム)として13㍑ほどあります。
 - 常温でも腐りにくい根菜類・乾物・レトルト食品や缶詰などを豊富に
 - カセットストーブ。250グラムのガスボンベ1本で1時間程度。1週間で15本
 - ラジオや携帯電話。電池となる乾電池。停電後も使えるよう十分な分かりやすい場所に保管する
 - できれば灯油ストーブ
 - ガリランタンが半分になれば満タンにする習慣を
 - シガーケットで電源を取れるインバーター

●非常用トイレ袋は必須。凝固剤も。排せつ回数は1人4~8回。4人で1週間で200回分程

南海トラフ巨大地震の最大被害想定

第70回 本当にできる?南海トラフ対策



相当な量になるが、少しずつどの備蓄を一週間分用意する工夫で保管することは可能だ

避難所のトリアージ

震災直後計 れぬ被害

内閣府が南海トラフ地震対策として、避難所の受け入れはそれを優先する「トリアーシ」(トライアシス)を提唱したことに、東日本大震災の被災者は実現は困難だと指摘する。東海地方の自治体も導入には難色を認めるが、トライアシスつまり地域の避難所増やす方法を考えるべきだ。

被災者選別どう判断

「選別」導入せず

各自治体の避難と備蓄の現状				
地震時の 最大避難者	避難所数と 収容能力	家庭の3日間 備蓄の達成率		
愛知県 名古屋市	96万人 40万人	3400所 780所	110万人 26万人	32% 22%
三重県 静岡県	69万人 117万人	2463所 1266所	— 85万人	— 40%

自治体

ひとり とせ住る災だ、行く

避難所は初
なるべく選別する側には
「どうやってのんびりと自分の家のへ」
の職員が、教師らが予想
される結果として、被
害者、弱者、老弱など、明確な
基準を持つかどうか
と尋ねた。西野さんは
「できるだけ、西野さんは
最後に向う」と答えた。
「南都トラフ地震が
いたった
関係を気に
いたいだった

「選別」導入せず
ばらつく備蓄量

自治体

各自治体の避難と備蓄の現状

地政課の 最大値	避難所数 と収容能力	3日間の 供給量の実績
愛知県 96万人	3400箇所 110万人	32%
名古屋市 40万人	783カ所 26万人	22%
三重県 69万人	243カ所 26万人	25%
静岡県 117万人	1286カ所 85万人	40%